

第8回（平成10年度）BELCA賞 ベストリフォーム部門 表彰作品

聖書キリスト教会 東京教会

所在地 東京都練馬区豊玉北1-12-3
用途 教会（改修後）
製菓工場（改修前）
竣工 1964年
改修 1995年
所有者 宗教法人 聖書キリスト教会
改修設計者 株式会社 東畑建築事務所
改修施工者 大成建設株式会社



応募建築物は、東京23区周辺部に立地していた製菓工場を、教会とその付属施設という、全く用途の異なる建築物に改修したものである。

河川改修工事に伴って立ち退かざるを得なくなった、山手線沿いにあった旧教会を移転拡充するにあたり、敷地の選定作業から計画が始められている。そして、工場の建てられている敷地を購入し、その工場を解体することなく躯体をそのまま利用することによって、当初に必要とされた面積をはるかに超える床面積を獲得することができたことに、この計画の大きな特徴がある。

工場という、人の出入りのあまり無い施設から、多数の信者が出入りする空間への用途変更が行われているが、そのための様々な計画上の配慮も、両サイドコア型という当初の平面形を生かし、適切に行われている。礼拝堂に改修された部分は、もともと天井の高い6階の講堂として利用されていたスペースではあるが、既存の大梁位置に対応させた天井の設計の工夫などにより、空調用ダクトや吹き出し口を組み込んだ、豊かな空間に生まれ変わっている。当初の必要床面積を超えているため、二層分が未使用室として残されていることも、今後の使われ方の自由度を高めており、この建物がこれからも長く用いられることを保証していると言えよう。

設備計画にあたっては、もともと工場建築であったという特性を活かし、余裕のある既存の梁貫通スリーブやパイプシャフトを有効に利用している。また、日常管理の合理化をはかるため、中央監視集中制御方式が採用されている。維持管理についても、設備機器毎のカルテを作成するなどし、専門業者に委託して定期的な点検・維持保全に努めている。

計画・設計にあたり、施主と設計者・施工者の間に良好な信頼関係のあったことも、全く用途の異なる建築へのリフォーム工事という困難なプロジェクトを成功させた一因のようである。塀を取り除いて周囲の住宅地や公園との調和を図るなど、周辺環境への配慮も行き届いた、優れた改修事例と言えよう。